

【3学期が始まっています】

今月12日（金）に始まった3学期。すでに2週間以上経ちました。1月も今日をあわせてあと3日です。

3学期は言うまでもなく、1年で一番短い学期です。よく、『1月は行く』『2月は逃げる』『3月は去る』と言いますが、この3か月は、それだけあっという間に過ぎ去っていくということでしょう。2月は、閏年ではあるものの29日しかありませんよね。1日1日を大切に過ごしていく必要があると感じます。

「一日一生」（著：酒井雄哉）というタイトルの本があります。今日一日を一生だと思って大切に生きなさいという意味だそうです。短い3学期。でも、高校受験、卒業式、修了式があるものすごく大事な3学期。特にこのような心持で生活することが求められるのではないのでしょうか。

【冬休みの反省と3学期の目標～始業式での生徒会代表の言葉より～】

みなさんは、冬休み有意義な時間を過ごすことができましたか。私は、課題を大体は計画通り進めることができました。1、2年生は部活動などで、少ない期間だったと思いますが1回1回の練習に集中して取り組んでいたと思いますし、3年生は進路実現に向け勉強、面接練習など、とても頑張っていたと思います。

3学期は、それぞれの学年が新しい道に向かって準備していく期間です。

1年生は、学習面で1年のまとめとして、わからないことを解決できるように家庭学習や授業に集中しましょう。体力づくりも行って、中総体に備えていきましょう

2年生は、学校の中心として、これからあるさまざまな行事に自分たちから積極的に取り組んでいきましょう。3年生の学習に向け、授業や家庭学習も集中して取り組んでいきましょう。

3年生は、健康管理に気を付け、自分の夢、進路実現に向けて、残り2か月の中学校生活も学習も後悔のないように、精一杯取り組んでほしいと思います。

生徒会としては、規則正しい生活を送り、1年のまとめとしてふさわしい学期になるように、各委員会と連携しながら生徒会活動を行っていきます。

また、お世話になった3年生に心を込めて感謝の気持ちを伝えられるような三送会や卒業式にできるように全校生徒一丸となって取り組んでいきたいと思っています。

生徒会代表 生内果穂

【“物”にも命が宿っている～校長の話から～】

今月23日（火）の全校朝会での私の話を紹介します。実際の物をみせながら話しました。

（前略）さて、今日は、「物」について、みんなに考えてほしいことがあります。

○私が学校で使っているマグカップ：最初に受け持った卒業生が中学を卒業するとき、私にプレゼントしてくれたものです。今でも大事に使っています。時折、このカップでコーヒーを飲んでいると、ふとした瞬間、まだ先生になりたての頃を思い出させてくれます。私に元気を与えてくれる魔法のカップです。あれからもう30年。四半世紀以上になります。

○私の筆入れにある定規: バイクの絵柄が印刷されていましたが、もうそれが剥げて、何もみえません。かすかに Japan の文字がみえるので日本製ということはわかります。中学や高校のとき、授業で使ったり、テストで使ったりしていたものです。ギザギザが入ってちょっと使い物にならない箇所がありますが、パソコン時代になった今でも、手書きで線を引くときには、たまに使ったりします。何でもないかもしれませんが、これを使うと、なんかうまくいくような気がするときがあるからです。色褪せていますが、この筆入れや、シャーペンも長年捨てずに使っているものです。

私は「物」にも命が宿っていると思っています。“そんなことないよ”という人がたくさんいると思いますし、実際、生き物のように「物」は自分の意思で動くことはありません。でも、長年大事に使っていると、私のように使っている人が愛着を感じ、その「物」から勇気ややる気をもらうことがあります。人の気持ちを動かしてくれるということは、「物」にも命が宿っているということではないか……、私はそう考えています。

みなさんは、学習用具をはじめ、自分が使うものを、どのように扱っていますか？ 中学3年生でも生まれてまだ15年なので、私くらい長く使ってみないと、この感覚はわからないかもしれません。いや、逆に、長く使っているからこそ大事になってくるのかもしれない……。いずれ、使い続ければ、「物」から勇気ややる気をもらうことがあるかもしれません。でも、自分が使う物を粗末に扱う人にはそんな経験はできないと考えています。そして、それはとても寂しいことだと私は思います。

今年、1月1日に能登半島で大きな地震があり、たくさんの犠牲者が出ました。地震による被害と言えば、今年の3月11日は、あの東日本大震災から13年という日にあたります。間もなくやってきます。つい先日、1月17日は阪神淡路大震災から29年目にあたる日でした。今、北陸地方には震災で大変な思いをしている方がたくさんいます。みなさんと同じ中学生も、住まいや道路が崩壊し、食料や生活物資もままならない中で暮らしています。普段、大事にしていた「物」を失った人もたくさんいると思います。毎日の報道を見るにつけ、1日も早い復興を願わずにはいられません。今我々は現地には行けません。本校の生徒会はそのことも考え、募金活動を始めました。みなさんにはその主旨をよく考えてほしいと思います。こうして不自由なく、友達と学校生活を送ることは当たり前のことではないのです。

さて、「形見」という言葉を聞いたことがあると思います。「記念に残された品物。特に死んだ人や分かれた人の遺品」と辞書には載っています。その物をみると、その人が生きていた時のことを思い出すという品物なので、今回の地震や東日本大震災でかけがえのない、大切な人を失った人々の中には、きっと、形見を心から大事にしている人がたくさんいると思います。これも「物」には命が宿っている一つの証になるのではないのでしょうか。

目に見える「命」はいつか必ず消えます。人だっていつかは必ず死にます。だから「物」を大事に使っていて、割れたり、壊れたりするのは仕方のないことだと思っています。それまでは大事に使う。私はこれからもそんな気持ちで自分の物を大切に使い続けたいと思います。目の前にある「物」。あるのが当たり前ではありません。みなさんも自分で使っている「物」について、ほんのちょっとでもいいので考えてほしいと思います。

